

《コース専門教育科目 コース専門応用科目》

科目名	こども音楽療育概論				
担当者氏名	児玉 達郎				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択必修	開講年次・開講期	4年・秋期

《授業の概要》

音楽療育の意義と援助方法を学び、療育的な音楽活動の中で、障がいのある子どもの発達能力を出来るだけ有効に育てあげ、自立に向かって育成するために、音楽の持つ様々な働きをどのように活用していくべきか、基礎・専門知識を学習する。

音楽療育に必要な曲の選び方・曲の作り方（簡易な作曲編曲）を学習し、実際の療育的な音楽活動の様々なモデルについて学習する。

《授業の到達目標》

- ・障がいのある子どもの音楽療育で必要となる基礎・専門知識を説明できるようになる。
- ・能動的音楽療育で必要となるメロディーの作曲や編曲ができるようになる。
- ・子どもの状態に応じて受動的音楽療育で使用する曲を選曲できるようになる。

《成績評価の方法》

平常点 50%
 期末試験 50%

《テキスト》

二俣泉・鈴木涼子・作田亮一 2011 「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」春秋社

《参考図書》

参考書：適宜紹介する。
 資料：必要に応じて配布する。

《授業時間外学習》

音楽療育に関するプリントと、曲の作り方に関するプリントを、授業で配布するので、その復習をする。
 授業で紹介する音楽（受動的音楽療法で使用する曲）を鑑賞する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	音楽療育についてのオリエンテーション	音楽療法とは何か。音楽療育で使用される用語。能動的音楽療法と受動的音楽療法。音楽活動の分類。音楽療法と音楽療法以外の音楽活動の違いについて。
2	音楽の心理的作用 同質の原理	音楽の持つ心理的な働き（気分の転導、感情の誘発、発散、励まし、慰め）。「同質の原理」と受動的音楽療法における選曲の考え方。
3	音楽の生理的作用 音楽の社会的作用	音楽の持つ生理的な働き。音楽の持つ社会的な働き。音楽の持つその他の機能、音楽と身体運動の関係。
4	コミュニケーションの育ちと音楽 1	音楽はなぜ子どもを動かすか（発達障がいの子どもの見せる、音楽への反応）。能動的音楽療法のためのモチーフの「原型」を使った旋律の作曲方法（1）を学習。
5	受動的音楽療法で使用する音楽の選び方 1	受動的音楽療法で使用される機会の多いクラシック音楽。西洋音楽史の大きな流れ（古代から近現代まで）。
6	受動的音楽療法で使用する音楽の選び方 2	受動的音楽療法のための楽曲分析の方法。
7	コミュニケーションの育ちと音楽 2	コミュニケーションを育てるための音楽の活用について。能動的音楽療法のためのモチーフの「原型」を使った旋律の作曲方法（2）を学習。
8	発達障がいと音楽療法	発達障がいと音楽療法について。能動的音楽療法のためのモチーフの「反行形」を使った旋律の作曲方法（1）を学習
9	音楽療育の計画手順 1	アセスメント（対象児の実態把握）、目標設定、セッションの形の検討について。
10	音楽療育の計画手順 2	プログラム内容の検討、音楽療育の実施、観察・記録、評価について。能動的音楽療法のためのモチーフの「反行形」を使った旋律の作曲方法（2）を学習
11	コミュニケーションを育てる音楽療法 1	コミュニケーション行動が育つのに必要な基礎能力「気づく」「眼差しの共有」について。三項関係について。
12	コミュニケーションを育てる音楽療法 2	コミュニケーション行動が育つのに必要な基礎能力「要求」について。音楽療育における作曲法「モチーフを用いたメロディーのアレンジ方法」を学習。
13	コミュニケーションを育てる音楽療法 3	コミュニケーション行動が育つのに必要な基礎能力「みわける・ききわける」について。音楽療育における作曲法「刺繍音によるメロディーのアレンジ方法」を学習。
14	コミュニケーションを育てる音楽療法 4	コミュニケーション行動が育つのに必要な基礎能力「動作模倣・音声模倣」について。
15	音楽療育のまとめ	音楽療育における能動的音楽療法と受動的音楽療法。音楽の持つ働き。発達障がい児のコミュニケーション能力を育てる音楽療育について。